

過去の被援助経験と現在の援助希求との関連

○中川裕香・生塩詞子
(安田女子大学大学院文学研究科)

研究の目的

問題を解決するための行動として援助要請があげられる。この援助要請は個人個人で変わると考えられるが、この違いはどこから現れるのだろうか。永井 (2019) は「対人関係での全般的な考え方が援助要請における行動に大きな影響を与える可能性を示している。しかし、援助要請の意識と行動は「過去の相談相手の対応」によって変化するのではないだろうか。よって、本研究では、過去の援助要請における評価が援助の意識と行動それぞれに及ぼす影響について検討した。

方法

調査対象者：学生 107 名 (男性 26 名, 女性 81 名, 平均年齢 20.93 歳)。**調査方法**：Google Form を用いた質問紙調査。**質問内容**：①被援助志向性尺度 (田村・石隈, 2001) ②援助要請スタイル尺度 (永井, 2013) ③援助評価尺度 (本田・石隈, 2008)。

結果と考察

使用尺度について、天井・フロア効果に該当した項目を除外し、確証的因子分析を行ったところ、被援助志向性尺度のみ α 係数が .60 を下回ったため、探索的因子分析を行った。既存の尺度と構成が変更したため、下記に結果を記す。

項目	I	II
I. 困難時の援助要請 ($\alpha=.75$)		
困っていることを解決するために、他者からの助言や援助が欲しい	.823	-.138
自分が困っているとき、周りの人には、そっとしておいて欲しい*	.789	-.080
困っていることを解決するために、自分と一緒に対処してくれる人が欲しい	.711	-.209
自分は、よほどのことがない限り、人に相談することがない*	.483	.220
II. 援助関係に対する抵抗感の低さ ($\alpha=.73$)		
自分は、人に相談したり援助を求めるとき、いつも心苦しさを感ずる*	-.256	.787
他人からの助言や援助を受けることに、抵抗がある*	.228	.512
人は誰でも、相談や援助を求められたら、わずらわしく感じると思う*	-.137	.506
何事も他人に頼らず、自分で解決したい*	.373	.428
今後も、自分の周りの人に助けられながら、上手くやっていきたい	.410	.413
逆転項目*	因子間相関	I II
	I	1.000 .510
	II	.510 1.000

援助評価尺度を説明変数、被援助志向性尺度・援助要請スタイル尺度を目的変数として重回帰

分析を行った。各結果を下記に示す。

援助評価が被援助志向性に与える影響

被援助志向性 (困難時の援助欲求) は援助評価【他者からの支えの知覚】が有意に促進し ($\beta=.45, p=.010$)、【問題状況の改善】が有意に抑制し ($\beta=-.38, p=.014$)、(援助関係に対する抵抗感の低さ) は【他者への依存】が有意に抑制していた ($\beta=-.29, p=.004$)。【他者からの支えの知覚】の結果について、寄り添ってくれる他者がいると評価したことから、援助を求めやすい環境にあると推察され、援助の欲求を高めると考えられる。また、【問題状況の改善】と自己効力感に正の関係がある (本田・石隈, 2008) ため、相談したことにより問題が解決し、自己効力感が上がることで、自信の向上につながり、援助欲求が低下したのではないだろうか。【他者への依存】の結果について、他者に依存して解決をしてしまったと評価をしたことから、相談相手に対する罪悪感を抱き、相談に対する抵抗感を増加させたと考えられる。

援助評価が援助要請スタイルに与える影響

援助要請スタイル《援助要請過剰型》は【他者からの支えの知覚】 ($\beta=.42, p=.017$) および【対処の混乱】 ($\beta=.32, p=.020$) が有意に促進していた。先ほどと同様、この評価をした者は援助を求めやすい環境にあると考えられ、他者に援助を求めて解決をする傾向にあると考えられる。また、【対処の混乱】は自己効力感と負の関係がある (本田・石隈, 2008) ため、自己効力感の低下が自信の低下につながり、人に頼ることでの解決が促進されることが考えられる。

以上より、援助に対する評価は、自身の自己効力感や自尊感情に影響を与え、その力が、援助要請の促進、抑制に影響を与えることが考えられる。そのため、悩みが解決したのかのみならず、援助者の声掛けと被援助者による援助への評価を検討し、関連を見つけることが必要であると考えられる。

主な引用文献

永井智 (2019). 援助要請スタイル間の差異に関する探索的検討—援助要請過剰型・回避型の特徴—. 教育心理学研究, 67, 278-288.